

観光地域づくり法人形成・確立計画

1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを○ で囲むこと	広域連携DMO<地域連携DMO>地域DMO	
観光地域づくり法人 の名称	(一社) 茨城県観光物産協会	
マーケティング・マネ ジメント対象とする 区域	茨城県	
所在地	茨城県水戸市三の丸1-5-38	
設立時期	昭和25年11月29日	
職員数	28人【常勤24人(正職員21人・出向等3人)、非常勤4人】	
代表者(トップ人 材:法人の取組につ いて対外的に最終的 に責任を負う者) ※必ず記入すること	(氏名) 大井川 和彦 (出身組織名) 茨城県知事	平成29年9月より、茨城県知事就任。また平成29年11月より(一社)茨城県観光物産協会会長就任
データ収集・分析等 の専門人材(CM O:チーフ・マーケ ティング・オフィサ ー ※必ず記入すること	(氏名) 鈴木 友子「専従」 (出身組織名) (株)プロジェクト茨城	旅行サイト最大手の「じゃらん」でのマーケティング等10年勤務、地元旅行会社での商品造成や添乗営業業務など8年勤務、他、新規観光施設設立や行政指定管理などの経験を持ち、県内行政・民間に幅広い人脈を持つ。
財務責任者 (CFO:チーフ・ フィナンシャル・オ フィサー) ※必ず記入すること	(氏名) 黒羽 晋「専従」 (出身組織名) 茨城県	宿泊施設オーシャンビュー大洗の支配人、茨城県北県民センター長を経験し、施設の運営全体に携わる経験を持つ。他、県北振興室、観光物産課などの経験も持つ。 県との折衝・調整を含め、運営収支や財源確保などを含め全体の業務責任を担う。
各部門(旅行商品の 造成・販売の責任者 (専門人材)	(氏名) 近藤 秀樹「専従」 (出身組織名) (株)JTB	(株)JTBに長年勤務し、主に法人・教育・インバウンド事業に従事し、関東本社では、誘致誘客事業を担当し関東管内の観光事業者各社と連携を図り国内外で観光PRを行った。また、栃木県観光物産協会出向時には、とちぎDMOの立上げと運営の主担当者として従事した。
各部門(物産販売) の責任者(専門人 材)	(氏名) 白土 智光「専従」 (出身組織名) (株)水戸京成百貨店	(株)水戸京成百貨店に37年勤務。販売や食品、新店舗準備室、レストラン専門店部長などの経験を持ち、物産販売に関して豊富な知識と経験を有している。
各部門(インバウン ド推進)の責任者 (専門人材)	(氏名) 清川 治彦「専従」 (出身組織名)	(株)日本旅行に32年勤務。団体関連、商品造成企画、提携販売などの経験を持ち、マーケティン

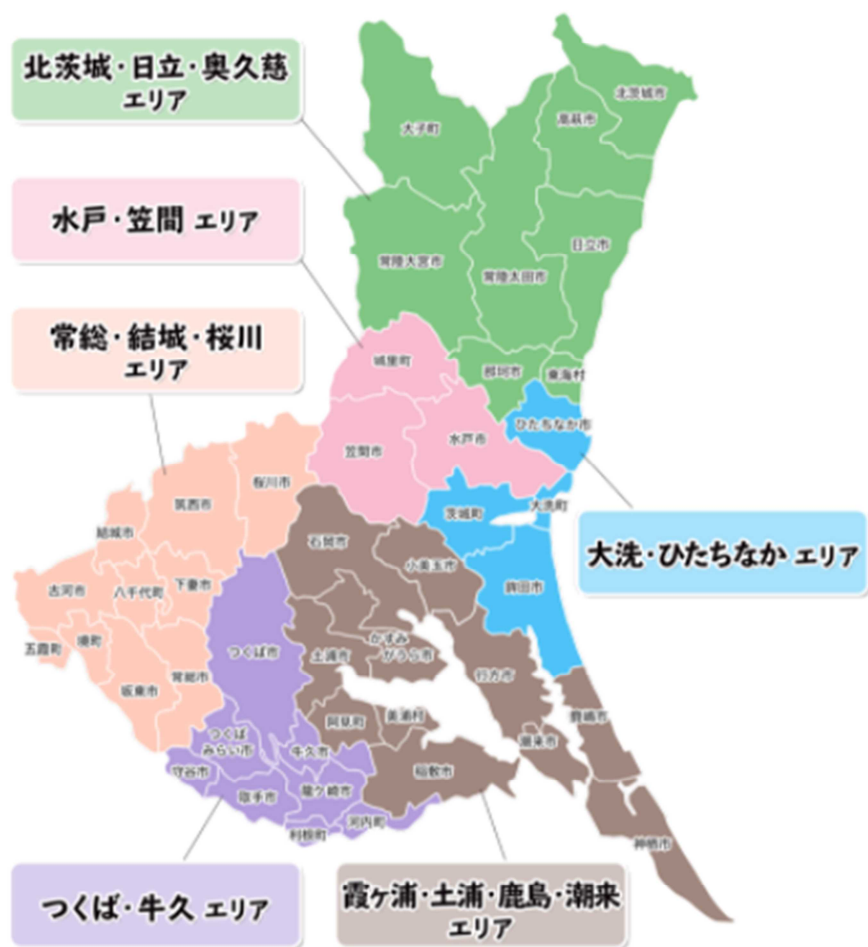
(別添) 様式 1

	(株) 日本旅行	グ、新規事業部門立ち上げ、コンプライアンス全般、人材育成などの知識を有している。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	茨城県営業戦略部観光物産課 (国内観光) 茨城県営業戦略部国際観光課 (国際観光) 他 県内市町村観光担当課 (観光全般)	
連携する事業者名及び役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内市町村観光協会 (地域内の連絡調整、PR等) ・ (一社) 茨城県旅行業協会、(株) JTB、近畿日本ツーリスト (株)、(株) 日本旅行 (旅行商品造成、誘客) ・ 茨城県ホテル旅館生活衛生同業組合、宿泊事業者 (宿泊) ・ 東日本旅客鉄道 (株)、茨城交通 (株)、関東鉄道 (株) 等 (交通) その他、会員事業者と事業に応じた連携	
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	<p>【該当する登録要件】②観光地域づくり法人が主導して行政や関係団体をメンバーとするワーキンググループなどの委員会等を設置 (概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理事会の開催 県行政、主要市町村観光協会、旅行者、宿泊事業者、交通事業者等の多様な団体の代表者を理事とする「理事会」を年4回ほど開催し、意思決定を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 物産部青年部会の設置 物産事業者の若手メンバーを中心に青年部会を設置。共同でのイベント出展などによる県産品のPRや、勉強会、情報共有などを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内市町村、観光関連団体、事業者への巡回訪問 DMO推進部署として、各関係者へ巡回訪問を行い、現状の課題や取り組みをヒアリングし、各種アドバイスや勉強会の設定などサポートを行っている	
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光の意識醸成の為、「おもてなし講座」を実施し県民のおもてなし力の向上を目指す。 ・ 県民一人ひとりの観光知識や接客スキルの向上を図るため、「いばらき観光マイスター」「いばらき観光マイスターS級」制度を導入 	
法人のこれまでの活動実績	(活動の概要)	
	事業	実施概要
	情報発信・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度市町村観光客誘客促進等支援事業 市町村が連携を希望するイベント・キャンペーン等への応援、支援。いばらき夢ガイドの派遣等 ・ 令和2年度観光宣伝事業 いばらき夢ガイドによるメディアでの情報発信、観光マップやパンフレット等の製作、旅行会社へのキャラバン等 ・ 令和2年度キャンペーン事業 大型ショッピングセンターでの観光キャンペーン、着地型のモニターツアーの実施、物産展、各イベントやメディアへのいばらき夢ガイド派遣による観光PR等 ・ 令和2年度観光いばらきホームページ事業 県の公式ホームページにて、観光スポットや宿泊施設の紹介、旬の観光モデルコースなどを提供
受入環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度茨城版 DMO 推進事業 セミナーなど人材育成、国内旅行動向調査、インバウンド旅行動向調査など 	

(別添) 様式 1

	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="448 188 644 300"></td> <td data-bbox="644 188 1460 300"> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度訪日観光客誘客事業 外国語ホームページの運営、通訳・翻訳支援、セミナーの実施等 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="448 300 644 510"> <p>観光資源の磨き上げ</p> </td> <td data-bbox="644 300 1460 510"> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度ツアーオフィス事業 各市町村と連携し、着地型ツアーを実施 令和2年度茨城版DMO推進事業 体験アクティビティの磨き上げや、着地型ツアーの実施、県産品のブランド化、新たな商品開発等 </td> </tr> </table> <p>(定量的な評価)</p> <p>○延べ宿泊者数 H30:5,892千人 R1:6,300千人(前年比6.9%増) ※出典:観光庁宿泊旅行統計調査</p> <p>○観光消費額 H30:255,474百万円 R1:248,695百万円(前年比2.7%減) ※出典:茨城県観光客動態調査</p>		<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度訪日観光客誘客事業 外国語ホームページの運営、通訳・翻訳支援、セミナーの実施等 	<p>観光資源の磨き上げ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度ツアーオフィス事業 各市町村と連携し、着地型ツアーを実施 令和2年度茨城版DMO推進事業 体験アクティビティの磨き上げや、着地型ツアーの実施、県産品のブランド化、新たな商品開発等 																																
	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度訪日観光客誘客事業 外国語ホームページの運営、通訳・翻訳支援、セミナーの実施等 																																				
<p>観光資源の磨き上げ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度ツアーオフィス事業 各市町村と連携し、着地型ツアーを実施 令和2年度茨城版DMO推進事業 体験アクティビティの磨き上げや、着地型ツアーの実施、県産品のブランド化、新たな商品開発等 																																				
<p>実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること(別添可)。</p>	<p>(実施体制の概要)</p> <p>一般社団法人として、総会及び理事会を定期的実施しており、理事には県行政・主要市町村観光協会・旅行者・宿泊事業者・交通事業者等の多様な団体の代表者が参画するなど、官民が連携した運営を実施。会員として、市町村観光協会、旅行業、宿泊関連団体、物産事業者等が加盟しており、令和2年8月12日現在会員数は519である。</p> <p>(実施体制図)</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="4">一般社団法人 茨城県観光物産協会 組織図 (令和元年度)</td> <td colspan="2">R2.6.25現在</td> </tr> <tr> <td>会長</td> <td>副会長</td> <td>専務理事</td> <td>常務理事兼事務局長</td> <td>総務課長</td> <td>総務課</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>次長兼 宣伝誘致課長</td> <td>宣伝誘致課 いばらきツアーオフィス</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>インバウンド 推進課長</td> <td>インバウンド推進課</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>DMO推進監</td> <td>DMO推進担当</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>次長兼 物産振興課長</td> <td>物産振興課 備楽園 見晴亭</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;"> </p> <p style="text-align: center;"> 県 ⇕ 連携 ⇕ 市町村・観光協会 ⇕ 連携 ⇕ 関係団体・事業者等 </p>	一般社団法人 茨城県観光物産協会 組織図 (令和元年度)				R2.6.25現在		会長	副会長	専務理事	常務理事兼事務局長	総務課長	総務課					次長兼 宣伝誘致課長	宣伝誘致課 いばらきツアーオフィス					インバウンド 推進課長	インバウンド推進課					DMO推進監	DMO推進担当					次長兼 物産振興課長	物産振興課 備楽園 見晴亭
一般社団法人 茨城県観光物産協会 組織図 (令和元年度)				R2.6.25現在																																	
会長	副会長	専務理事	常務理事兼事務局長	総務課長	総務課																																
				次長兼 宣伝誘致課長	宣伝誘致課 いばらきツアーオフィス																																
				インバウンド 推進課長	インバウンド推進課																																
				DMO推進監	DMO推進担当																																
				次長兼 物産振興課長	物産振興課 備楽園 見晴亭																																

2. 観光地域づくり法人がマーケティング・マネジメントする区域



【区域設定の考え方】

当協会は、茨城県における観光及び県産業製品の振興に関する事業を行い、もって公共の福祉の増進と地域経済の健全な発展に寄与することを目的としており、県内市町村観光協会をはじめ、県内各地域の事業者等が会員となっている。これまで、県内を対象区域として観光情報の収集及び提供、国内外観光客の誘致、受入体制の整備、県産品の普及、宣伝及び販路拡大等に取り組んでいることから、県全域を区域として設定した。

【観光客の実態等】

(1) 入込客数 (延べ人数) (単位:千人)

区 分	令和元年	平成 30 年
入込客数	64,434	61,836
前年比(%)	104.2(%)	100.9(%)

(2) 入込客数 (実人数)

(単位:千人)

(別添) 様式 1

令和元年	平成 30 年	対前年増減	前年比
40,267	40,409	△142	99.6(%)

◇日帰り・宿泊別入込客数 (単位:千人)

	宿泊	日帰り	計
入込客数	4,909	35,358	40,267
構成比(%)	12.2(%)	87.8(%)	100.0(%)

◇県内外別入込客数 (単位:千人)

	県内	県外	計
入込客数	18,206	22,062	40,268
構成比(%)	45.2 (%)	54.8 (%)	100.0(%)

(3) 観光消費額

(単位:百万円)

平成 30 年	令和元年	対前年増減	前年比
255,474	248,695	△6,779	97.3(%)

◇日帰り・宿泊別観光消費額 (単位:百万円)

	宿泊	日帰り	計
観光消費額	40,698	115,716	156,414
構成比(%)	26.0(%)	74.0 (%)	100.0 (%)

◇県内外別観光消費額 (単位:百万円)

	県内	県外	計
観光消費額	75,688	173,007	248,695
構成比(%)	30.4(%)	69.6(%)	100.0(%)

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

○観光施設

国営ひたち海浜公園、水郷潮来あやめ園、アクアワールド茨城県大洗水族館、かみね公園、古河公方公園、いばらきフラワーパーク等

主な活用としては、アクアワールド茨城県大洗水族館で日本酒と食を提供する夜の大人向けイベントの開催や、国営ひたち海浜公園のコキアやネモフィラなど花をメインとするツアー造成、古河公方公園では桃の時期にマラソン大会の実施などがある。

○自然

筑波山、袋田の滝、霞ヶ浦、涸沼、牛久沼、竜神峡、花貫溪谷、花園溪谷観光農園（農業体験・果樹狩り）、温泉等

主な活用方法としては、筑波山の登山や、冬季夜景を見る着地ツアーの造成、霞ヶ浦の景観

(別添) 様式 1

を活用したサイクルツーリズム、竜神峡のバンジージャンプなどがある。

○文化

借楽園、弘道館、西山荘、六角堂、鹿島神宮、笠間稲荷神社、雨引観音、牛久大仏、笠間工芸の丘、茨城県陶芸美術館、笠間日動美術館、茨城県天心記念五浦美術館、観光帆引き船、真壁の町並み、つむぎの里、茨城県自然博物館、水戸芸術館、JAXA筑波宇宙センター、工場見学等

主な活用方法としては、笠間稲荷神社の菊まつりや藤まつり、きつねをテーマにしたコスプレイベント、借楽園で夜の梅を楽しむイベント、真壁の町並みで各店舗でひな人形を飾り旅行者をもてなす雛祭りなどがある。

○スポーツ

カシマサッカースタジアム、海水浴場、サイクリングコース、ゴルフ場、パラグライダー等
主な活用としては、遊泳禁止の海水浴場で行われる砂浜図書館イベントや、カシマサッカースタジアムを利用した子供向けキャンプ、グルメイベントなどがある。

○イベント

ロックインジャパンフェス、水戸黄門まつり、水郷潮来あやめまつり、笠間の菊まつり、土浦全国花火競技大会、古河花火大会、水戸の梅まつり、笠間の陶炎祭、石岡のおまつり等

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

○県内ホテル・旅館 施設数及び客室数 (平成 30 年度末現在)

ホテル・旅館営業	
施設数	客室数
953	27,395

出典：厚生労働省衛生行政報告例 ※平成 30 年からホテル・旅館まとめた統計

【利便性：区域までの交通、域内交通】

○区域までの交通

- ・鉄道：JR各線及び つくばエクスプレス
- ・航空：茨城空港 (国内線：札幌、神戸、福岡、那覇)
(国際線：台北、上海、西安)
- ・バス：高速バス
- ・船舶：フェリー (苫小牧一大洗)
- ・高速道路等：常磐自動車道、首都圏中央連絡自動車道、北関東自動車道、東関東自動車道
水戸線

○域内交通

- ・鉄道：JR各線、つくばエクスプレス、関東鉄道、ひたちなか海浜鉄道、鹿島臨海鉄道
- ・バス等：主要駅から各種路線バス及び観光周遊バス、タクシー等

【外国人観光客への対応】

当協会では、外国人観光客受入体制の整備のため、会員向けに施設の案内表示、宿泊用説明文、食事メニューなどの翻訳支援や外国語研修などを実施している。

また、外国人観光客対応のための「インバウンド部会」を定期的開催し、関係機関等との情報交換などに努めるほか、外国人誘客推進リーダーによるインバウンド取扱旅行会社への営業を通じて、旅行商品造成を働きかけている。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

(別添) 様式 1

収集するデータ	収集の目的	収集方法
WEBサイトのアクセス状況住民満足度	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	ホームページ委託者によるアクセスレポートを利用して実施アンケート調査を自主事業として実施。
観光消費額	地域への経済効果を把握するため	茨城県観光客動態調査 宿泊者ハガキアンケート
来訪者満足度	各種サービスの評価・改善の参考とするため	〃
リピーター率	各種サービスの評価・改善の参考とするため	〃
延べ宿泊客数	宿泊者数の実態を把握するため	観光庁宿泊旅行統計

4. 戦略

(1) 地域における観光を取り巻く背景

茨城県では、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故による風評被害により大幅に観光客が減少していたが、県全体では震災前の水準に回復してきているものの、県北臨海地域では回復が遅れている。また、急速な少子高齢化により、国内の人口減少、特に生産年齢人口（15～65歳）が減少することにより、国内旅行需要の縮小が懸念されることから、新たな観光需要の創出や、増加する高齢者への対応を進める必要がある。

(2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み (Strengths) <ul style="list-style-type: none"> ・ 通年で受入可能な気候条件 ・ 住みやすい環境 ・ 陸・海・空の広域交通網の充実 ・ 筑波山・袋田の滝などの豊富な自然資源（海・山・川・湖を有する） ・ 「世界の絶景」と称される国営ひたち海浜公園のネモフィラやダイヤモンド筑波などの絶景スポットの充実 ・ 全国一位を誇るレンコン・メロン・ほしいもなどに代表される食の一大産地 ・ 日本国内でも類いまれな科学技術の集結地 ・ 工場見学や酒蔵見学等の受入施設の多さ ・ バンジージャンプやサイクリング、マリンスポーツのほか、観光農園や陶芸体験などのアクティビティの充実 ・ 一般客が利用可能なゴルフ場の多さ ・ クラフトビールや梅酒が海外でも人気 ・ 海外の旅行会社から、渋滞がほとんどなく、移動時間が安定しているとの評価 ・ 映画やドラマの撮影の多さ 	弱み (Weaknesses) <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客一人当たりの消費額が低い ※約 88%が日帰り観光 ※滞在時間（平均到着時間・平均出発時間の差）が近隣県と比較して短い ・ 全国的に知名度の高い観光資源の不足 ・ 国において国立公園への観光誘客に力を入れている中、国立公園がない ・ 現地消費に繋がる著名な土産品の不足 ・ 観光資源の点在による周遊の難しさ ・ 二次交通ネットワークの不足 ・ 県内事業者・観光協会・自治体等による統一プロモーションや連携に対する機運醸成の不足 ・ 地震や豪雨等の自然災害が多いという海外からのイメージ ・ 外国人に人気がある新幹線の駅がない

(別添) 様式 1

外部環境	<p>機会 (Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏・成田空港からの距離的な近さや好アクセス ・圏央道の県内区間全線開通 ※山梨・神奈川・埼玉方面からの誘客 ・平成 31 (2019) 年いきいき茨城ゆめ国体・ゆめ大会、平成 32 (2020) 年東京オリンピック・パラリンピックの開催 ・訪日外国人観光客の増加傾向 ・一人旅の増加傾向 ※一人旅の割合が全国比に対し高い 	<p>脅威 (Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光地間の競争の激化 ・国内観光客の基礎となる人口の減少 ・旅行市場を支えるシニア層旅行者の減少 ・圏央道の県内全線開通による高速道路利用者の県内通過の増加 (例：成田空港から直接埼玉・栃木等へ移動) ・観光・農業関連事業者の高齢化・後継者不足 ・海水浴客の減少 ・将来のドライバー数の減少 (車での観光客の減少)
------	--	---

※上記に加え、PEST分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入 (様式自由)。

(3) ターゲット

<p>○第1ターゲット層</p> <p>首都圏、近隣県からの観光客 (例 20~30 代の若年層、マイカーファミリー層等)</p>
<p>○選定の理由</p> <p>「平成 28 年度 DMO 形成・確立に係る実態調査」「茨城県観光動態調査」「茨城県宿泊アンケート調査」のデータを参考に選定を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏・近隣県からのアクセスが良好 ・果物狩り、筑波研究学園都市、豊富な食資源などの観光資源の充実 ・アクティビティ (バンジージャンプ・サイクリング等) の充実 <p>◇県外来訪者の内、千葉県が最も多く、次いで東京都、埼玉県の発地者が多い。</p> <p>◇首都圏中央道路連絡自動車道の県内全線開通により、埼玉県幸手方面からの来訪者が 2 倍以上に増加 (H28→H29)。</p> <p>○取組方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターゲット (ライフスタイル) に沿った媒体を選定した効果的なプロモーションの実施 ・着地型旅行商品サイトへの情報掲載による認知度の向上や直接的な販売・誘客 ・認知度、興味度、満足度調査の分析結果に基づいてターゲット層に強力に訴求するコンテンツの開発、ブラッシュアップなど付加価値をつけた発信 ・県内観光事業者・観光協会・自治体の広域連携による複数の観光資源と体験メニュー等を組み合わせた広域モデルコースの提案や、旅行会社への商品造成の働きかけ ・県内観光事業者・観光協会・自治体との連携による首都圏や近隣県での商談会の開催
<p>○ターゲット層</p> <p>外国人観光客 (FIT (個人旅行者), 団体ツアー等) (例：個人旅行者；アジア・欧米豪、団体ツアー；アジア)</p>
<p>○選定の理由</p> <p>「平成 28 年度 DMO 形成・確立に係る実態調査」のデータを参考に選定を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪日旅行者の受入拠点 (茨城空港、茨城港) の存在 ・羽田空港・成田空港からの好アクセス ・東京からの好アクセス ・外国人観光客の人気スポットの存在

(別添) 様式 1

<p>◇外国人旅行者数 平成 30 年 : 233 千人 → 令和元年 : 267 千人 出典 : 観光庁 旅行・観光消費動向調査 都道府県集計表</p> <p>◇平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月に海外から本県を周遊・宿泊したツアーは、3,360 本 (92,800 人) 催行され、昨年対比 98%。ツアー催行国は、台湾・タイ・中国・香港・韓国・ベトナム・が約 9 割を占める。 出典 : 茨城県営業戦略部国際観光課 茨城県周遊ツアー催行状況について</p> <p>○取組方針</p> <p>[PR・情報発信]</p> <ul style="list-style-type: none">・外国版ホームページ・フェイスブックでの情報発信や、海外の旅行博・商談会への出展・メディアやブロガー等の招請による本県観光資源の PR <p>[旅行商品造成促進]</p> <ul style="list-style-type: none">・インバウンド推進リーダーや誘客スタッフの配置によるインバウンド推進体制整備及び誘客活動促進・旅行会社等へのセールスコールやファミツアーの実施によるツアー造成促進 <p>[受入体制整備]</p> <ul style="list-style-type: none">・観光事業者等への翻訳支援をはじめとする多言語表記の推進・外国人観光客受入のための研修会の開催 <p>[個人旅行化等の進展等の外国人観光客の旅行形態の変化を踏まえた対応]</p> <ul style="list-style-type: none">・体験型アクティビティ等の充実・情報発信強化・SNS や旅行サイト、スマートフォン向け動画等を活用した情報発信・民間事業者等と連携した滞在コンテンツの開発等による宿泊観光促進
<p>○ターゲット層 茨城空港就航先からの観光客 (札幌・神戸・福岡・那覇)</p>
<p>○選定の理由 「平成 28 年度 DM0 形成・確立に係る実態調査」のデータを参考に選定を行った。</p> <ul style="list-style-type: none">・北関東 3 県広域での観光客誘致の取組・高い連泊率・公共交通機関・レンタカーの高い利用率 <p>◇連泊率 神戸から 32.8%、関東 4 県から平均 9.8%</p> <p>◇公共交通機関利用率 例) 路線バス 神戸から 20.3%、関東 4 県から平均 9%</p> <p>○取組方針</p> <ul style="list-style-type: none">・就航先での栃木県・群馬県も含めた商談会など広域観光情報の発信、就航先での旅行商品造成の働きかけ・就航航空会社との連携による航空会社 HP 上での観光情報発信・県内レンタカー会社との連携によるレンタカー会社 HP 上での具体的な周遊ルート及びグルメ情報の掲載

(4) 観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	ビジット茨城～新観光創生～
②コンセプトの考え方	<p>○東京を中心とする大都市圏に隣接しながら、豊かな自然環境、歴史・文化遺産、世界最先端の科学技術、海の幸・山の幸など豊富な食資源に加え、マリンスポーツやサイクリングなどのスポーツアクティビティ、果物狩りや陶芸体験など様々な体験型観光が可能であるなど、多様な地域資源を活用して新たな体験メニューの開発やアクティビティの充実を推進する。</p> <p>○多くの人口を抱える首都圏に位置し、東京からの交通アクセスが良好であるという立地条件を活かし、科学技術の拠点や豊富な農林水産物など、東京にはない本県の魅力と、東京が持つ都市的な魅力の双方が楽しめる観光圏域づくりを推進する。</p> <p>これらのことにより、国内はもとより世界から本県への誘客を促進し、世界に通用する新しい観光の創造を目指す。</p> <p>※(1)～(3)のデータ分析の内容を踏まえて作成したコンセプトであることを説明すること。</p>

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	県と月に2回程度戦略の進捗状況確認及び今後の方向性について意見交換を行う。 また、市町村観光協会、旅行業者、宿泊事業者、交通事業者等の多様な団体の代表者が参画する理事会を3ヶ月に1回程度行い、戦略に掲げた事業進捗状況など情報の共有を図る。年に3～4回、市町村観光協会や事業者を集めて勉強会などを実施し関係者との戦略に掲げた事業に関する情報の共有を図る。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	いばらき観光マイスター認定制度や、更に上位のS級の設定により、旅行者へのサービスの向上を図る。また、宿泊者への満足度調査を行いKPIの測定、PDCAサイクルの確立を図る。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	「観光いばらき」ホームページやパンフレット等により茨城県全体の観光情報を一元的に発信するほか、市町村等との連携やスタッフの配置により、観光客に対する情報提供窓口機能を強化するとともに、設定したターゲットやコンセプトに基づき、プロモーション活動を行っていく。

6. KPI (実績・目標)

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を記入すること。

※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

(1) 必須KPI

指標項目		2018 (H30) 年度	2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度
●観光消費額 (百万円)	目標	3,215 ()	3,457 ()	3,700 ()	3,950 ()	4,200 ()	4,943 ()
	実績	2,555 ()	2,487 ()	()	()	()	()
●延べ宿泊者数 (千人)	目標	6,821 ()	7,181 ()	6,640 ()	6,999 ()	7,377 ()	7,775 ()
	実績	5,892 ()	6,300 ()	()	()	()	()
●来訪者満足度 (%)	目標	47.5 ()	48.7 ()	50.0 ()	51.9 ()	53.8 ()	55.8 ()
	実績	46.5 ()	48.7 ()	()	()	()	()
●リピーター率 (%)	目標	77.2 ()	78.6 ()	80.0 ()	86.2 ()	92.8 ()	100 ()
	実績	68.5 ()	65.2 ()	()	()	()	()

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

KPIの設定にあたっては国の観光立国推進基本計画の目指す方向性や伸び率に沿ったKPIを設定する。

【設定にあたっての考え方】

●観光消費額

当初国の観光立国推進基本計画のH21→H28=1.177倍に準じて算出

※ $2,260 \text{ 億円} \times (1+0.177) \div 2,660 \text{ 億円}$

ただし平成27年度の実績を踏まえ上方修正 H27 現状値 2,695 億円→平成32年度 3,700 億円

●延べ宿泊者数

令和元年までは、宿泊観光入込客数(実人数)のH27実績からH32目標値の伸び率を、延べ宿泊者数(国の宿泊旅行統計調査)の実績に乗じて算出。

【参考】宿泊観光入込客数(実人数)の目標値の算出方法

H26の宿泊者数の占める割合(13.8%)が毎年0.5ポイント増加し、H32に16.8%まで増加することで算出。

※ $41,726 \text{ 千人} \times 16.8\% = 7,010 \text{ 千人}$

※H25年(13.3%)→H26年(13.8%)の伸び率0.5ポイント

令和3年以降は、平成29年～令和元年の伸び率5.4%を乗じて算出

●来訪者満足度

観光客動向調査より茨城県の観光に対し「非常に満足」している観光客の割合。令和2年までは、過去5年間で最高値だった平成24年度(46%)に、平成23年度～24年度の伸び率(4%)を加える

(別添) 様式 1

令和3年以降は、平成29年～令和元年の伸び率3.7%を乗じて算出

●リピーター率

令和元年までは、平成28年度DMO形成・確立に係る実態調査を参考に、下記の指標を設定

平成27年度73%を平成32年度に80%まで増加することで算出

令和3年以降は、平成29年～令和元年の伸び率7.7%を乗じて算出

(2) その他の目標

指標項目		2018	2019	2020	2021	2022	2023
		(H30) 年度	(R1) 年度	(R2) 年度	(R3) 年度	(R4) 年度	(R5) 年度
●外国人ツアー数 (件)	目標	2080	2500	3000	3000	3000	3000
		()	()	()	()	()	()
	実績	3442	3360				
		()	()	()	()	()	()
●外国人旅行者数 (千人)	目標	543	632	720	720	720	720
		()	()	()	()	()	()
	実績	342	351				
		()	()	()	()	()	()
●国内観光いばらきホームページアクセス数 (万PV)	目標	2,327	2,244	2,468	2,715	2,987	3,286
		()	()	()	()	()	()
	実績	2,327	2,244				
		()	()	()	()	()	()
●外国語観光いばらきホームページアクセス数 (万PV)	目標	84	104	120	14	28	56
		()	()	()	()	()	()
	実績	7	7				
		()	()	()	()	()	()

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

KPIの設定にあたっては国の観光立国推進基本計画等の目指す方向性や伸び率に沿ったKPIを設定する。

【設定にあたっての考え方】

●外国人ツアー数

観光庁の観光立国推進事業計画によると、訪日外国人旅行者数の目標は4,000万人で、平成27年度の実績1,974万人の2.3倍となっている。また、延べ宿泊者数の目標は7,000万人で、平成27年度の実績2,514万人の2.78倍となっている。平均すると約2.5倍となることから、

平成32年度は平成27年度催行見込み(1,200ツアー)の2.5倍増加すると想定

※1,200ツアー×2.5倍=3,000ツアー

令和2年度以降は新型コロナウイルスの影響もあり実質来県は0に近く、先も不透明の為いったん目標数値を据え置き

(別添) 様式 1

●外国人旅行者数

昨年の訪日外国人客数×本県訪問率(平成25年度→26年度の訪日外客数の伸び1.29倍が6年間続いた場合)+茨城空港からの訪日外客数

※(148千人×1.29⁶)+40千人=720千人

令和2年度以降は新型コロナウイルスの影響もあり実質来県は0に近く、先も不透明の為いったん目標数値を据え置き

●観光いばらきHPアクセス数(国内・海外)

※2020年まではセッション数で設定していたが、2021年からはページビューで設定

国内:2019年度より、年間10%増で算出

外国語:令和3年以降は、令和元年の数値の年間100%増で算出

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後3年間について、計画年度毎に(1)収入、(2)支出を記入すること。

※現に活動している法人にあっては、過去3年間の実績も記入すること。

(1) 収入

年(年度)	総収入(円)	内訳
2018(H30) 年度	300,672,198(円)	(円) 【県からの補助金】: 41,201,450(地方創生交付金を含む) 【県からの委託料】: 150,937,670 【会費】: 20,508,000 【収益事業】: 58,881,489(県委託事業を除く) 【特定財源(負担金)】: 26,596,523 【その他】: 2,547,066
2019(R1) 年度	305,888,581(円)	(円) 【県からの補助金】: 38,620,000(地方創生交付金を含む) 【県からの委託料】: 123,257,513 【会費】: 19,733,500 【収益事業】: 108,775,116(県委託事業を除く) 【特定財源(負担金)】: 13,291,314 【その他】: 2,211,138
2020(R2) 年度	270,006,836(円)	(円) 【県からの補助金】: 81,724,836(地方創生交付金を含む) 【県からの委託料】: 90,834,000 【会費】: 20,530,000 【収益事業】: 54,195,000(県委託事業を除く) 【特定財源(負担金)】: 21,922,000 【その他】: 801,000
2021(R3) 年度	271,776,000(円)	(円) 【県からの補助金】: 18,112,000 【県からの委託料】: 113,613,000 【会費】: 19,634,000 【収益事業】: 108,290,000(県委託事業を除く) 【特定財源(負担金)】: 11,325,000 【その他】: 802,000
2022(R4)	271,776,000(円)	(円)

(別添) 様式 1

年度		【県からの補助金】 : 18,112,000 【県からの委託料】 : 113,613,000 【会 費】 : 19,634,000 【収益事業】 : 108,290,000 (県委託事業を除く) 【特定財源(負担金)】 : 11,325,000 【その他】 : 802,000
2023 (R5) 年度	271,776,000 (円)	【県からの補助金】 : 18,112,000 【県からの委託料】 : 113,613,000 【会 費】 : 19,634,000 【収益事業】 : 108,290,000 (県委託事業を除く) 【特定財源(負担金)】 : 11,325,000 【その他】 : 802,000

(2) 支出

年(年度)	総支出	内訳
2018 (H30) 年度	288,895,614 (円)	(円) 【一般管理費】 41,557,179 【情報発信・プロモーション】 159,251,573 国内 28%、海外 72% 【受入環境整備等の着地整備】 800,000 【コンテンツ開発(観光資源の磨き上げ)】 5,784,081 【マーケティング(市場調査、ブランド戦略等)】 29,673,413 【観光イベントの開催費】 11,798,974 【物産販売】 40,030,394
2019 (R1) 年度	284,424,462 (円)	(円) 【一般管理費】 30,518,674 【情報発信・プロモーション】 115,500,814 国内 36%、海外 64% 【受入環境整備等の着地整備】 800,000 【コンテンツ開発(観光資源の磨き上げ)】 5,747,091 【マーケティング(市場調査、ブランド戦略等)】 25,639,312 【観光イベントの開催費】 10,945,675 【物産販売】 95,272,896
2020 (R2) 年度	243,780,830 (円)	(円) 【一般管理費】 15,097,000 【情報発信・プロモーション】 117,006,000 国内 46.5%、海外 53.5% 【受入環境整備等の着地整備】 600,000 【コンテンツ開発(観光資源の磨き上げ)】 6,100,000 【マーケティング(市場調査、ブランド戦略等)】 16,354,830 【観光イベントの開催費】 4,268,000 【物産販売】 84,355,000

(別添) 様式 1

2021 (R3) 年度(案)	271,776,000 (円)	(円) 【一般管理費】 15,097,000 【情報発信・プロモーション】 128,941,000 国内 46%、海外 54% 【受入環境整備等の着地整備】 1,400,000 【コンテンツ開発 (観光資源の磨き上げ)】 6,100,000 【マーケティング (市場調査、ブランド戦略等)】 18,958,000 【観光イベントの開催費】 4,268,000 【物産販売】 97,012,000
2022 (R4) 年度(案)	271,776,000 (円)	(円) 【一般管理費】 15,097,000 【情報発信・プロモーション】 128,941,000 国内 46%、海外 54% 【受入環境整備等の着地整備】 1,400,000 【コンテンツ開発 (観光資源の磨き上げ)】 6,100,000 【マーケティング (市場調査、ブランド戦略等)】 18,958,000 【観光イベントの開催費】 4,268,000 【物産販売】 97,012,000
2023 (R5) 年度(案)	271,776,000 (円)	(円) 【一般管理費】 15,097,000 【情報発信・プロモーション】 128,941,000 国内 46%、海外 54% 【受入環境整備等の着地整備】 1,400,000 【コンテンツ開発 (観光資源の磨き上げ)】 6,100,000 【マーケティング (市場調査、ブランド戦略等)】 18,958,000 【観光イベントの開催費】 4,268,000 【物産販売】 97,012,000

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- ・県産品や旅行商品の販売、会員の拡大による会費収入の増加などを図り、自主財源の占める割合を増やしていくことを目指す
- ・一方で、県域DMOの役割は観光による地域活性化という公益性が高いものであることから、当面は県等からの補助や委託事業費についても、安定的な財源として確保していく

8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

茨城県は、一般社団法人茨城県観光物産協会を本県における地域連携DMOとして登録したいので一般社団法人茨城県観光物産協会法人とともに申請します。

(別添) 様式 1

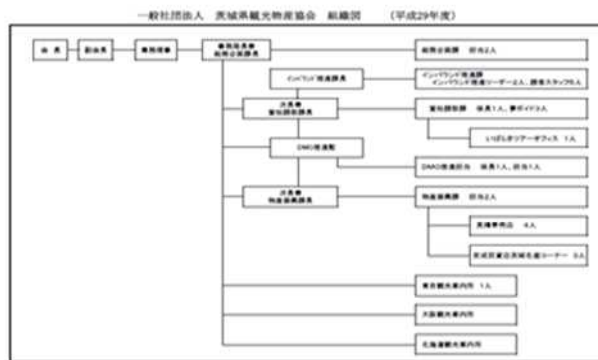
9. 記入担当者連絡先

担当者氏名	鈴木 友子
担当部署名 (役職)	宣伝誘致課 DMO 推進監
郵便番号	〒310-0011
所在地	茨城県水戸市三の丸 1-5-38
電話番号 (直通)	029-226-3800
F A X 番号	029-221-9791
E - m a i l	t.suzuki@ibarakiguide.info

10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	茨城県
担当者氏名	柴沼 功
担当部署名 (役職)	営業戦略部観光物産課 課長補佐
郵便番号	〒310-8555
所在地	茨城県水戸市笠原町 978-6
電話番号 (直通)	029-301-3617
F A X 番号	029-301-3629
E - m a i l	i.shibanuma@pref.ibaraki.lg.jp
都道府県・市町村名	茨城県
担当者氏名	今井 佐知子
担当部署名 (役職)	営業戦略部国際観光課 課長補佐
郵便番号	〒310-8555
所在地	茨城県水戸市笠原町 978-6
電話番号 (直通)	029-301-3616
F A X 番号	029-301-3608
E - m a i l	s.imai@pref.ibaraki.lg.jp

実施体制



マーケティング・マネジメントする区域

【主な観光資源】

国営ひたち海浜公園、水郷潮来あやめ園、アクアワールド茨城県大洗水族館、かみね公園、いばらきフラワーパーク、筑波山、袋田の滝、霞ヶ浦、潤沼、竜神峡、花貫溪谷、偕楽園、弘道館、西山荘、六角堂、鹿島神宮、笠間稲荷神社、雨引観音、牛久大仏、など



合意形成の仕組み

【該当する登録要件】②

【概要】

- ・理事会の開催
- ・物産部青年部会の設置
- ・県内市町村、観光関連団体、事業者への巡回訪問 他

法人のこれまでの活動実績

【情報発信・プロモーション】

- ・市町村観光客誘客促進等支援事業
- ・観光宣伝事業
- ・キャンペーン事業
- ・観光いばらきホームページ事業

【観光資源の磨き上げ】

- ・ツアーオフィス事業(各市町村と連携した着地型ツアーの実施)
- ・茨城版DMO推進事業(体験アクティビティの磨き上げ、着地型ツアーの実施、県産品のブランド化、新たな商品開発等)

【受入環境の整備】

- ・茨城版DMO推進事業
- ・訪日観光客誘客事業

戦略

【主なターゲット】

首都圏、近隣県からの観光客
(例 20～30代の若年層、マイカーファミリー層等)

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

- ・ライフスタイルに沿った媒体を選定した効果的なプロモーションの実施
- ・着地型旅行商品サイトへの情報掲載による認知度の向上や直接的な販売・誘客
- ・認知度、興味度、満足度調査の分析結果に基づいてターゲット層に強力に訴求するコンテンツの開発、ブラッシュアップなど付加価値をつけた発信など

観光関連事業者と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

県と月に2回程度戦略の進捗状況確認及び今後の方向性について意見交換を行う。理事会を3ヶ月に1回程度行い、戦略に掲げた事業進捗状況など情報の共有を図る。市町村観光協会や事業者を集めて勉強会などを実施し情報の共有を図る。

KPI(実績・目標)

※()内は訪日外国人旅行者に関する数値

項目		2018 (H30) 年度	2019 (R1) 年度	2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度
旅行消費額 (百万円)	目標	3215	3457	3700	3950	4200	4943
	実績	()	()	()	()	()	()
延べ宿泊者数 (千人)	目標	6821	7181	6640	6999	7377	7775
	実績	5892	6300	()	()	()	()
来訪者満足度 (%)	目標	47.5	48.7	50.0	51.9	53.8	55.8
	実績	46.5	48.7	()	()	()	()
リピーター率 (%)	目標	77.2	78.6	80.0	86.2	92.8	100
	実績	68.5	65.2	()	()	()	()

活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

【主な収入】県からの委託料90百万円、収益事業約54百万円(R2年)

【総支出】284百万円(一般管理費30百万円、事業費254百万円)

※令和1年3期決算

【自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針】

- ・市町村からの依頼でツアー造成、県から補助金でなく事業の受託、県産品の通販による販売